

機関番号：16101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009年度～2010年度

課題番号：21792261

研究課題名（和文）

日本女性のディスエンパワメントな性行動の自己決定をエンパワメントへ導く方略

研究課題名（英文）

The strategy to empower Japanese women who are disempowered in self-determining their sexual behavior

研究代表者 芝崎 恵（SHIBASAKI AYA）徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 助教

研究者番号：00515546

研究成果の概要（和文）：

①諸外国の性行動に関する質問紙調査、②性的予防行動（避妊や性感染症予防）に関する面接調査を日本人カップルに実施した。結果、①避妊に関しては、8割が男女共に取り組むべきと考えていた。一方、②日本人カップルでは性感染症への危機感が低く、女性は男性との愛情関係や就職による経済的・社会的自立、今まで妊娠していないという経験から予防意識が緩みコンドームなしの性交へと傾いていた。男女それぞれが妊娠や性感染症について自分自身の問題として考える機会や、交際中のカップルまたは疑似カップル間でロールプレイを行いパートナーとの交渉能力の向上を図っていくこと求められる。

研究成果の概要（英文）：

① Questionnaire surveys on the sexual behavior of foreign nationals and ② interview surveys to Japanese couples on their sexually preventive behavior (contraception and prevention of sexually-transmittal diseases) were conducted. As a result, regarding contraception, 80 percent of the respondents in ① considered that both men and women should take the initiative. On the other hand, in ②, the Japanese couples tended to have sexual intercourse without a condom because of low awareness of sexually-transmittal diseases. Also, this was related to the Japanese women's affectionate relationships with their partners, economic and social independence through employment, and lack of pregnancy experience. It is necessary to create an opportunity for both men and women to recognize pregnancy and sexually-transmittal diseases as their concerns. Also, through role-playing between couples or pseudo-couples, it is essential to improve their skills in negotiating with their partners.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,000,000円	600,000円	2,600,000円
2010年度	1,300,000円	390,000円	1,690,000円
年度			
年度			
年度			
総計	3,300,000円	990,000円	4,290,000円

研究分野：医師薬学

科研費の分科・細目：看護学・生涯発達看護学

キーワード：母性・女性看護学

### 1. 研究開始当初の背景

全年齢層を比較すると20歳代女性の人工妊娠中絶は依然として高率である。性感染症(STI:Sexually Transmitted Infection)の問題も深刻化している。15~19歳でSTIに感染している女性患者数は男性患者数の3.2倍にも達する<sup>1)</sup>。さらに、子宮頸がんは30代で増加傾向にあり、10~20代の性交渉に伴うHPV(ヒトパピローマウイルス)感染が増加していると考えられる。世界では年間約24万人(うち日本では約2400人)が子宮頸がんにより死亡しており、日本女性のがん死亡原因の上位に位置してきている。命を脅かすという点では、HIV/AIDSも深刻な問題となっている。STIの女性患者数の42%を占めるクラミジア感染は不妊症の原因ともなっている。

日本で主に使用されている性的予防行動(避妊や性感染症予防を目的とした行動)は男性用コンドームであり、女性の性的予防行動は男性の予防意志に左右されやすい。未婚女性の初交時の避妊では25%は避妊未実行という結果がでていいる。その理由は「避妊具がなかった」「避妊を言いだせなかった」と、性交や避妊への主体性が欠如した女性のディスエンパワメントな傾向が伺える。比べて諸外国の女性が選択している避妊法は、ピルやIUD・避妊手術と続き、特に若い世代では70~80%がピルを使用し、女性が主体的に避妊へ取り組んでいる状況が見える。

また、研究者らは若年女性を対象として「避妊に関する女性の自己決定」を明らかにする研究を行い、【パートナーとの関係性の中での決定】が大きく関わっている事が明らかとなった。既存研究でも、女性がパートナーからの拒絶を恐れてコンドームの使用を提案できない男女間の力の不均衡があることが示唆されている<sup>2)</sup>。

社会的には日本も男女平等意識が主流となり、女性自ら自己の生き方を選択する時代となってきている。また、「健やか親子21」で国をあげて思春期からの性教育も積極的に実施している。それにも関わらず、日本の女性が避妊など性行動に関してディスエンパワメントな自己決定となっている現状の背景を探り、そこからエンパワメントできるための看護方略を見出すことは重要と考えられる。

1) 熊本悦明：女性上位のSTI時代 - STIの最近の動向、臨床婦人科産科、第55巻、1、

一出版、2001

2) 福本環、森永康子：男女大学生の避妊行動に関する研究-愛情を感じる相手との最も最近の性交渉において-、母性衛生 Vol. 46, No1, 2005

### 2. 研究の目的

日本女性が自分自身の性行動に関するディスエンパワメントな自己決定からエンパワメントへの看護方略を明らかにする。

#### 目的 (1)

諸外国の性行動に関する質問紙調査を実施し、諸外国の人々の性行動の特徴とディスエンパワメントおよびエンパワメントな側面を明らかにする。

#### 目的 (2)

交際している日本人カップルを対象に、性的予防行動に関する実態を明らかにし、女性のディスエンパワメントおよびエンパワメントな側面を明らかにする。

#### 目的 (3)

目的(1)(2)を比較検討することで、日本女性が性行動に関する自己決定をエンパワメントできる看護方略を探る。

### 3. 研究の方法

(1) 諸外国の性行動に関する質問紙調査：性感染症や避妊に関わる現状を国・個人双方の視点で回答頂くアンケートを作成した。これを、アンケートサイト(“STI and Sexual Activity Survey” [www.surveymonkey.com/s/TWSVNGM](http://www.surveymonkey.com/s/TWSVNGM))へ掲載し、諸外国の人々を対象に、スノーボールサンプリング方式を用いて、回答を募った。

(2) 日本人カップルへの性的予防行動(避妊や性感染症予防)に関する面接調査：A大学の学生およびスノーボールサンプリング方式により、20歳代の交際男女に本研究への参加協力を募った。同意を得た交際カップルに、半構成的面接調査を1時間~2時間半に渡り、1~2回実施した。面接内容は、許可を得てICレコーダーに録音し逐語録にした。面接により二人の関係性が変化する可能性を説明し了解を得たカップルを対象とした。

性行為は男女の相互関係から生まれるものであり、また相互に作用することでそれぞれの行動も変容しているもの

と考えられる。そこで、本研究ではブルーナーの「相互作用理論」を用いて性的予防行動における男女の関係性の特徴を明らかにすることとした。分析方法は、逐語録から性的予防行動において男女が相互作用しながらお互いに意味づけや解釈している語りの部分を抽出し、各カップル像を作成した。そして、抽出した語りや相互作用の特徴に即して、類似した内容を集めカテゴリー化を行った。

本研究は、徳島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得て（承認番号：845,983）実施した。

#### 4. 研究成果

##### 方法(1)

回答数 17 件。男性 9 人・女性 8 人で、平均年齢 32.3 歳、職業は医療系学生 2 名・その他の学生 5 名・医療者 4 名・その他の職種 6 名。インド・バングラデシュ・エジプト・アメリカ・ポルトガル・イギリス・スペイン・日本・中国・タイ・韓国の方々から回答が得られた。

<国レベル>問題となっている性感染症は回答多数順に HIV・クラミジア・淋病で、理由は、知識不足・不特定多数との性交・売春が主にあげられた。国の対策としては、予防具の使用法の説明 64%、検査や治療の医療費補助 28%、予防具の経済的補助や無料配布 21%であった。性教育開始年齢は 11-15 歳 62%、16-20 歳 18%、6-10 歳 12%で、教育なしが 6%であった。半数が性感症・避妊教育を受けたと回答し、予防方法としては、コンドーム・経口避妊薬・IUD が選択されていた。

<個人レベル>予防方法は回答多数順にコンドーム・膈外射精・経口避妊薬が用いられていた。84%がパートナーと共に予防法を決定し、76%がその決定に満足していた。一部諸外国では、宗教的背景を理由に性教育が実施されず、神に守られているため性感染症に罹患することはないという回答もあり、宗教など文化的背景が性行動に大きく影響している状況が明らかとなった。避妊に関しては、8 割が男女共に取り組むべきという考えであった。

##### 方法(2)

7 カップルの協力が得られた。年齢は男女共に、20~26 歳（平均 22.9 歳）、交際期間は 13~77 ヶ月（平均 43 ヶ月）であった。男女共に、性感染症への危機感が低かった。性的予防行動は、避妊を主な目的として、全カップルが男性用コンドームを使用しており、4 カップルがコンドームなしの性

交経験があった。前交際相手間では、女性 4 人がコンドームなしの性交を経験していた。女性 2 人は同意の上で、1 人は男性が優位な関係性で拒否できずにコンドームなしの性交を経験していた。残る 1 人は同意なく、男性に騙されコンドームを装着してもらえず性交に至った経験をしていた。

性的予防行動における交際男女の相互作用は、交際初めの互いに窺い合う関係から、交際を重ね互いの信頼関係が深まることにより性的予防行動が緩めあったり、反対にお互いを律し合う相互作用があった。すなわち、<交際初めの性的予防行動の相互作用><交際を重ね性的予防行動が緩む相互作用><性的予防行動が維持される相互作用>の 3 つの局面が明らかになり、各局面でその相互作用に特徴が見られた。

<交際初めの性的予防行動の相互作用>の局面では、【暗黙の内にわかりあう】【彼の性的予防行動への態度で愛情や誠実さを確認する】【性感染症は疑わない】【性感染症の有無をうかがいあう】の 4 つの特徴が明らかとなった。<交際を重ね性的予防行動が緩む相互作用>の局面では、【予防方法や性交経験に伴う予防意識の薄らぎ】【性的予防行動を緩めあう】【彼に流される】【コンドームなしの性交方法を工夫して避妊の予防策をとる】【妊娠に対する男女間のずれ】の 5 つの特徴が明らかとなった。<性的予防行動が維持される相互作用>の局面では、【ブレーキをかけあう】【妊娠の可能性や性感染症を体験することで性的予防行動を強化しあう】【パートナーとの関係を維持しあう】【彼女の月経の状況をうかがう】の 4 つの特徴が明らかとなった。

交際初めは、性教育や性情報の氾濫の影響を受け、当然の如く男性用コンドームが使用されていた。しかし交際を重ねる中で、就職による経済的・社会的自立、今まで妊娠していないという経験から、性的予防行動が【性的予防行動を緩めあう】【彼に流される】状況が生じ、コンドームなしの性交へと傾く男女双方のディスエンパワトな特徴が明らかとなった。特に女性は、パートナーとの愛情関係を重視する中で予防行動が緩んだり、パートナーに流されコンドームなしの性交へと傾くことが明らかとなった。

一方で【ブレーキをかけあう】というお互いを律し合いながら性的予防行動を維持するエンパワメントな特徴も明らかとなった。

知識や理性に訴えるだけでなく、男女それぞれが妊娠や性感染症について自分自身の問題として考える機会や、交際中のカ

ップルまたは疑似カップル間でロールプレイを行いパートナーとの交渉能力の向上を図っていくことが求められる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計2件)

1. 芝崎恵, 岸田佐智: An Investigation into Contraception and Sexually Transmitted Infections~Worldwide - from person and National Perspectives~, 14th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS), 2011年2月11日, Seoul Olympic Park Hotel, Seoul, Korea

2. 芝崎恵: 避妊・性感染症に関する研究における男女の関係性に焦点をあてた研究の動向, 第6回中国四国思春期学会学術集会, 2009年7月3日, 日垂メディカルホール (徳島大学)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等: なし

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者 芝崎 恵 (SHIBASAKI AYA)  
徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス  
研究部・助教  
研究者番号: 00515546

(2) 研究分担者 なし

( )  
研究者番号:

(3) 連携研究者 なし  
( )

研究者番号: